

平成 24 年度事業活動報告

概況： 持続的な人道支援プロジェクトとして

当会は 2004 年に発足以来 10 年経過して、当会の目的や使命について国内外の多くの方々の理解と支援をいただき、本年度末には累計で 20 カ国 3145 台を海外で車椅子を必要とする子ども達に送り届けることができました。

当会の障害児支援活動は各国の団体へ 1 度限りの寄贈に終わることなく、持続的・継続的な人道支援のプロジェクトとして、現地へ送った後も受け取り団体が障害児の保護者と貸与契約を交わすなど適切に管理されているか、適時追跡調査も行って確認し、さらに適合しなくなった車椅子は次の必要な子どもに貸与して、リサイクルできるように指導してきました。

また、破損や故障した時には、当会から無償で必要な部品や修理マニュアルも送り、修理して長く使われ、受益者が増えていくように、現地受け入れ団体への協力と支援をしています。

マレーシアでは当会の現地受け入れ団体である元日本留学生同窓会が、彼らが日本で学んだ技術と当会の指導を受けて、車椅子整備工場を立ち上げて修理をはじめて車椅子の現地製造もはじめました。

このことによって当会の活動が確実に現地に根をおろして、受益者が相乗的に増えていくことを期待しています。

国内では、首都圏の特別支援学校の PTA などに当会の海外での活動を報告して理解を深めると共に、定期的に使われなくなった車椅子の提供をいただき、海外で大切に再び利用されていることに共感を呼んでいます。未だ当会の活動が PTA 会員には十分周知されておらず、当会が海外の車椅子を必要とする恵まれない子ども達との橋渡しになっている活動の結果を伝えていく必要があります。

現在、プロジェクトによっては外務省の日本 N G O 連携無償資金協力の助成を受けていますが、きびしい経済環境のもとで、民間助成や個人団体の寄付も減少傾向にあり、整備費用、輸送費の確保に支障を来たして、会の運営は大変困難な状況であるので、資金確保になお一層努力を続けていかねばなりません。

1. 車椅子収集事業

首都圏の特別支援学校 51 の PTA 会長や校長・自立活動部の先生それに、養育施設 7 カ所の責任者に対して 6 月に当会活動報告、7 月からミニ通信を送付し、さらに 9 月には全 PTA 会長にアンケート調査を実施して、当会の使命や活動について理解を求め、車椅子の提供の協力を呼びかけました。

又、収集の際に出来る限り学校に訪問して当会活動の目的と内容について PTA 役員には報告し、さらなる協力を要請しています。

その結果、7 校から初めての提供があり計 21 校から約 650 台(前年比 130)収集できました。

その結果、首都圏の特別支援学校 51 の内、半数以上 (55%) の 28 校から提供をうけていることとなります。



埼玉県立和光特別支援学校での収集
PTA と学校の協力で集めて廊下で保管



筑波大学付属桐ヶ丘特別支援学校 PTA の
役員がトラックへの積み込みも手伝ってくれた

2. 車椅子整備事業

当会の例会へ会員やボランティア参加者が減少する傾向にあり、整備の能力が収集台数をまかなうことが出来ず、将来の安定的な整備体制を構築するために、4 月に福生市の NPO 青少年自立塾に整備委託をすることにして覚書を交わしました。

一方で、当会の例会への参加人数は大学生や企業・慈善団体からの参加が増えてきて、ランチタイムに皆が交流できるよう配慮し、ゆとりある活動として仲間の輪が広がりました。

例会年間参加者： 433名（昨年406名）整備台数 282台（前年392台）
 自立塾での整備台数（270）と合わせて、552台の整備をすることができました。



例会での整備活動には大学生や企業のボランティアが多く参加しています。

3. 車椅子発送事業

*ミャンマー	8月	40台	国立リハビリテーション病院
マレーシア	9/3月	150台	KL近郊障害者支援NGOへの支援
ネパール	6月	100台	ポカラ障害者支援NGOへの供与
*インドネシア	11月	150台	ソロ市障害者支援開発訓練センター
タイ	11月	80台	タイ障害者協会
		合計	530台 計画比100 前年比90

当会の海外での活動報告



ミャンマーへは初めて、ヤンゴン市の国立リハビリテーション病院へ40台を送り届けて（11月）政府福祉局長と当会理事が障害児達に贈呈した。ミャンマーには子ども用車椅子はなく日本の機能的な車椅子に驚き、今後も送ってくれるよう懇願された。



ネパールのヒマラヤの麓のポカラ市にある障害者支援団体へ 100 台を届けた。JICA の青年協力隊で物理療法士の支援で、適合する車椅子を障害児の家庭に届けてリハビリ指導や車椅子の使い方を指導している。(10月)



マレーシアにはこれまで 600 台以上送り届けた。今回はクアラスンポール郊外の小学校で贈呈式を行い地域の人たちが多く参加し当会の活動と現地の障害児の支援と理解を深めた。車椅子を修理する工場も立ちあがった。(10月)



インドネシアで最も古く組織的な地域に根差した障害者支援活動をしている中部ジャワの CBR 開発訓練センターに 150 台を届けた。(2013 年 2 月) 団体はソロ市近郊 8 県 5000 人以上の障害児のデータベースを持ち、専門家が車椅子を管理する



タイの障害者協会へ昨年に引き続き 2 回目の寄贈で累計 160 台を届けた。昨年は障害児の養護施設や学校に配布していたが、今後は支援が十分行き届かない農村部の障害児に届けることにした。

上記のように当会は各国で、行政及び福祉当局さらに障害児と保護者を招いて贈呈式を行い、当会の趣旨と車椅子の有効な活用方法について説明し、理解を深めています。

子ども達の施設や家庭を訪問して、子ども達の生活が車椅子を活用することによって、どのように生活が変化し改善されていくか、また車椅子をどのように維持管理していくかを説明しています。

また訪問時には車椅子が安全かつ丁寧に使われ、故障した時には放置せずに、すぐに修理を依頼することも伝えていきます。

* 外務省日本 NGO 無償資金協力支援助成プロジェクト

過去のプロジェクトのモニタリング報告と評価実施
エチオピア、カンボジア、ネパールからの各報告

4. 活動広報事業

月刊ミニ通信を昨年 12 月 90 号で終了して、2013 年から「活動レポート」を季刊で発行することとし、第 1 号を 2 月に会員、支援者、特別支援学校へメール配信と宅配便をはじめました。

当会ウェブサイトの情報整理とリニューアルを来年度に行います。

以上

平成 25 年事業活動計画

1. 車椅子収集事業

収集時に理事が受領時に訪問して、当会活動内容の理解を深める
首都圏特別支援学校への啓蒙活動（活動レポート）
昨年度 3 月末で約 150 台の在庫があるので 500 台の収集が必要。
年間 550 - 600 台安定的な収集ができるよう努力する。

2. 車椅子整備事業

例会参加者の交流と確実な整備 年間 240－300 台
自立塾の安定的整備活動 年間 300－350 台
・・・ 年間 650 台整備体制 別紙参照

3. 車椅子発送事業

ホンジュラス	5 月	20 台	JICA「世界の笑顔のために」プログラム
カンボジア	7 月	160 台	全国リハビリセンターと障害児施設
エチオピア	9 月	90 台	チェシャ財団ジマ市活動拠点
タイ	12 月	80 台	タイ障害者協会
フィリピン	8/11 月	160 台	マニラ近郊・ミンダナオ障害者団体
ベトナム	26 年 2 月	160 台	ベトナム赤十字
<u>合計 670 台計画</u>			

4. 活動広報事業

活動レポートの発行(年間 4 回)
新規ウェブサイトの立ち上げと情報整理・維持管理

5. 活動資金確保活動

会員の増加
地域慈善団体の寄付依頼
民間助成の申請